

繰り返り起こる大地震

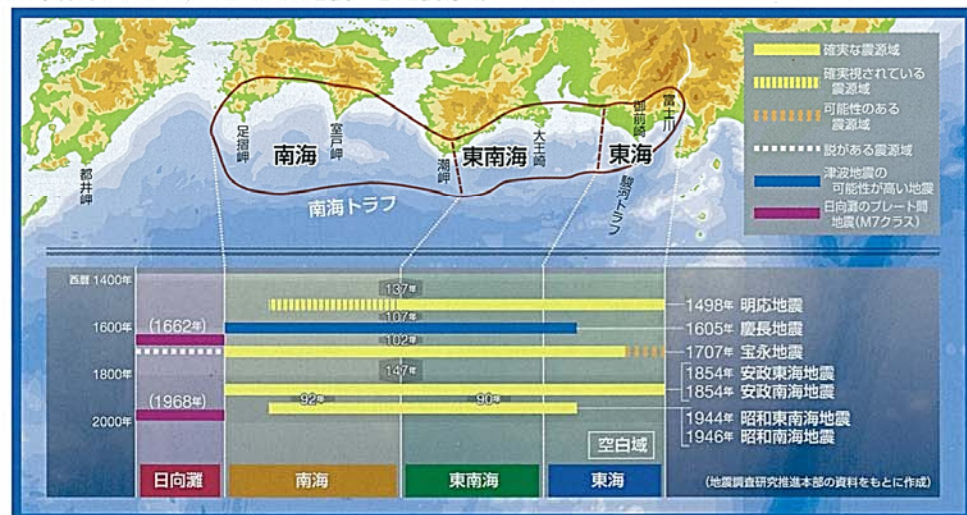
日本列島の太平洋岸では、プレートの潜り込みによる地震が繰り返り起こっています。フィリピン海プレートが潜り込む東海から四国にかけての海域では、おおむね100年から150年の周期で、ほぼ同じ場所で、ほぼ同じ規模の大地震が繰り返り起こっています。

1854年の安政東海地震の後、東海地方より西側では1944年（昭和19年）の東南海地震や1946年（昭和21年）の南海地震が発生し、このとき、地震のエネルギーが放出され、次の地震はしばらく後と考えられています。

駿河湾から御前崎沖ではいまだ大地震が発生しておらず、地震のエネルギーが蓄積されていると考えられており、地震活動の空白域とみられ、近い将来、大地震の発生が予想されているのです。

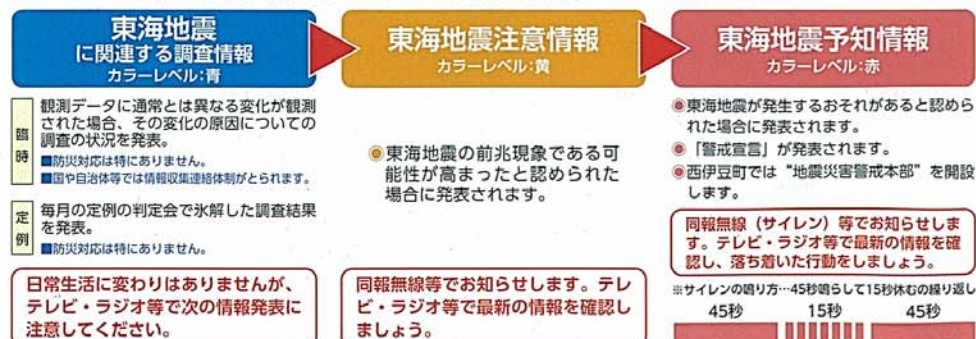
また、東日本大震災の例のように、東海地震単独発生のみならず、東南海地震、南海地震との3連動も懸念されています。

太平洋岸で起こった過去の大地震と想定震源域



東海地震に関連する情報を正しく理解しましょう

平成23年3月24日から、気象庁が発表する“東海地震に関する情報”体系が見直されました。すべての情報は、広報やテレビ・ラジオ等を通じて市民のみなさんに伝えることになりますので、情報について正しく理解し、情報が発表されたときには、冷静に行動することが必要です。



巨大地震の被害想定

静岡県では、東日本大震災の教訓を生かし、今後の地震・津波対策の基礎資料として活用するため、12年ぶりに被害想定を見直し、「第4次地震被害想定」を策定しました。

レベル1の地震・津波

発生頻度が比較的高く（駿河・南海トラフでは約100～150年に1回）、発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波

レベル2の地震・津波

発生頻度は極めて低いが、発生すれば莫大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波

第4次地震被害 想定概要	西伊豆町の被害想定			
	駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震		相模トラフ沿いで発生する地震	
	レベル1	レベル2	レベル1	レベル2
想定対象地震	東海地震 東海・東南海地震 ^{※1} 東海・東南海・南海地震 (マグニチュード8.0～8.7)	南海トラフ巨大地震 (マグニチュード9程度)	大正型関東地震 (マグニチュード8.0程度)	元禄型関東地震 (マグニチュード8.2程度)
最大震度	6強	6強	5強	6弱
最大津波高	7m	15m	2m	3m
浸水域	1.2km ²	2.5km ²	0.1km ²	0.2km ²
人的被害(死者数) ^{※2}	約2,200人	約4,300人	—	—

※1 国において駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震・津波のモデルである2003年中央防災会議モデルの見直しが進められていることを踏まえ、レベル1の地震は南海トラフ巨大地震モデル（2012内閣府）の基本ケースにより、レベル1の津波は2003年中央防災会議モデルにより検討した。なお、新モデルが発表された場合は、内容を確認の上、必要に応じて被害想定などの再計算などの対策を講じます。

※2 冬・深夜、早期避難率が低い場合

【参考：第3次地震被害想定の対象地震】

東海地震（マグニチュード8）	神奈川県西部の地震（マグニチュード7）
----------------	---------------------



（静岡県「地震防災ガイドブック」をもとに編集）

津波対策の基本的な考え方

レベル	対策
レベル1	防潮堤等津波防御施設の整備を進め、津波浸水域や浸水深の減少、避難時の確保を目指し津波を防ぐ対策を行います。
レベル2	避難することを中心とした避難路等の整備やハザードマップの作製などソフト対策を行います。